

(以下バイノーラル)

《ふらっ……》

(寝起きで2度の射精をした”あなた”が疲れてフラつく音)

んん？　どうかしたのかのう、主様？

……ああそうか、そうじゃのう。

飯を食べたとはいえ、疲れて起きた後に……体を使わせ過ぎてしまったかのう？

うう……申し訳ありませんでしたのじゃ、主様。

ワシが、主様の好意に甘えてしまったばかりに無理をさせてしまったようじゃのう……。

《しゅる……ぎゅっ》

(身を寄せ、体を支える音)

今日は、もう眠って下さいなのじゃ。

天気さえ良ければ、言っていた通り明日にでも帰り道がある場所まで案内させて貰うのじゃ。
だから安心して、今日はもう……お休み下さいませなのじゃ。

さっ、こっちじゃよ。

起きた時に使っておったもので申し訳が、すぐに床まで案内させて貰うからのう。

……もうちょっとワシに体を寄せて下さって良いのじゃよ？

《とす、とす……とさっ》

(体を支えながら歩き、“あなた”を床に寝かしつける音)

ほら、主様。

床に着いたのじゃ、そのままゆったり身を沈めて……目を閉じ下さって良いからのう。

今、手拭で主様の体を軽く拭かせて貰うからの……くふっ●

流石に、情事の残りが付き過ぎてしまったからのう。

少しは拭かねば風邪を引いてしまうのじゃ。

《しゅる……》

(手拭を取ろうと体を動かした音)

んっ……、主様のマラも……雄の場所がぐっしよりじゃ。

ワシの出した液と、主様の子種汁の残りがべつとりしておって……体も、ワシのために動いてくれた
せいで、汗が所々浮かんでおるのう。

……情事の残りだけ、先に口で清めさせて頂いた方が良さそうじゃの。

じっとしておって欲しいのじゃ……んっ●

んっ、じゅる……くちゅ、ちゅる……くちゅ、ちゅう……じゅるっ●

いやらしい匂いが、こびりついておる、のう……●

発情した雌狐と……んっ、ちゅう……ちゅるうっ、くちゅっ●

応えてくれた、優しい雄の……暖かな残り香と味が、たっぷり口に広がるのじゃ……くふっ●
んっ、ちゅう……れちゅうっ、じゅるっ……ちゅうっ、くちゅ……ちゅう、ちゅうっ……ちゅ

るうううつつ●●

んっ…………ふはああっ●●

はあ…………ふふ、こんなもの、かのう？

うん…………べたつきは取れたのじゃ●●

では、体の方を拭かせて頂くからのう●●

…………くふっ●●

口に含んでおつたら、主様のが少し大きくなりそうじゃったけど…………疲れておるのにこれ以上飲ませて貰つては、体に障るかもしれないからのう。

我慢させて貰うのじゃ…………ふふっ●●

さ、汗と一緒にワシの涎のあともし拭いてしまうからのう、そのままじつとして下され、じゃ●●

《……し…………し…………》

(暫し、近くにあつた手拭で体を拭く音)

…………良し、こんなものか、のう？

全体的に拭いたので、少しはさっぱりしたと思うのじゃ」

ふふ…………アソコを拭いておると、反応して少しぴくりとしておつた主様は可愛かつたのう…………くふふ●●

あはっ●●冗談じゃ、そんなもの言いたげな顔をせんで欲しいのう●●

言うたじやろう、お主の…………主様の体に障るような事をこれ以上はしたくないと。

ワシももうこれ以上は離れておくので、ぐっすり体を休めて下さいなのじゃ●●
ではのう…………。

《しゆる…………ぱしっ》

(ナコが身を起こそうとして、手を掴まれる音)

…………くあおう？主様、どうかしたのかの？

何か欲しいものがあつたのなら、持つて来るから遠慮せず言うて欲しいが…………ふえ？

…………ワシが傍に居つた方が良いのか、の？

むう…………ワシなんか傍に居つては、寝にくいのではないじゃろうか？

ほれ、ワシは…………お主と違う所があるから、チラチラと目に入つて…………気になつてしまわぬかのう？

それに、先程までお主に…………主様にお情けを頂いて乱れたばかりじゃから…………。

その、ワシの方はまだ体に色々液がついてしまつておるから、主様の体が触れたら不快じゃと思うのじゃが…………。

むう？

もう一度口で、かの？

あう…………ダメじゃよ！ さつきは、つい…………先程までのまぐわいの名残で、つい啜えてしもうたが…………これ以上お主を疲れさせるつもりはないと、言うたじやろう！

ダメ…………ダメじゃ！

手でもいいとか、そういう話じゃないんじやよ…………ワシは、お主に疲れを取つた欲しいんじや！

今やったら、それこそぐったりし過ぎてしまっじやろう？
お主は……明日、帰るんじやろう……し。
そんな体に無理などさせられぬっ！

だから、ダメじゃ……絶対ダメなのじゃっ！

くあおう……主様は良き人じゃが、快樂に弱すぎるのじゃっ！

……はあ。

主様は我侬なのじゃ……ワシだつて、我慢しておるのじゃよ？

……主様さえ元氣なら、本当はもつと……ワシは主様の熱を感じられるの、堪らぬ心地よく思う
手おるのじゃから。

いつまでだつて口を吸い、子種汁を飲ませて頂き、主様に好きなだけ……雌狐の膺を染めて頂き
たいと思うておるのじゃ……。

でも、ワシが調子に乗つてはダメじゃと、これでも自制しておるのじゃ……お願いじゃから、言う事
を聞いて下され。

くあおん……？

それなら、せめて眠るまで横に……かの？

……先程も言うたが、本当に氣にならぬのか？

うやあ、そこまで主様が氣にならないと……ワシに傍に居れと言うて下さるのなら、眠るまで傍
にいらせて頂くが、のう？

《しゆる……。ぺたんっ》

(隣に座る音)

……くやう。

こういう時、どうしたら良いのじやろうか……？

眠る誰かの傍にただいた事などないから、うう……よく、分からぬのじゃ……。

うー……頭でも、撫でれば良いのか、のう？

ちと、それは流石に主様を童(わらべ)扱いし過ぎかのう……？

あう……困った、困ったのじゃ、どうしたら良いのかのう……ううん……。

ひやうつ！？ なつ、なんじゃ主様！？

うやうつ！？ い、今の聞こえておったのか！？

……くあおん？ ……あ、頭を撫でるので良いのかのう？

ふ、む……それがお主を辱める(はずかしめる)事でないのなら、ワシとしては構わぬが……。

う、む……お主が、主様が望まれるのなら、そうさせて貰おうかのう。

では、そうじゃのう……そうさせて頂くとしようかのう。

《ぐっ……さす、さす》

(頭を撫でる音、以下背景でうつすらとリピート)

……どうじゃ、こんな感じで良いかのう？

ふむ……良いのなら、ワシとしては満足じゃ。

ふふ、考えてみれば、先程……抜けてしまう時にお返しという感じじゃな」
よーしよーし……ふふ、やや子を相手にしているようじゃが、主様が喜んで下さるのなら嬉しいのう●

良い子じゃ、良い子じゃ……主様は本当に良い子じゃ」
疲れておったのに、こんなワシに氣を使つて下さつて……情けを下さつて、あんなに熱い精を注いで下さつた……主様は、本当に素敵な男(おのこ)じゃよ●

こんな行為で、その感謝を少しでも返せておるとは思わぬけれど……主様がそうしたいと思うのなら、ワシはいつぱいいつぱい……それに応えたいと思うておるからのう」
よーしよーし……良い子じゃ良い子じゃ、主様は良い子じゃ……だから今はぐっすりおやすみなさいませ、じゃ。

素敵な素敵な、男(おのこ)のお主……主様●

ワシはお主が迷い込んで来た時、とても戸惑つておったが……。
けれど、変化をせずとも、ワシをワシとして見てくれる人間が現れたと思うて……はしゃいでおつたように思うのじゃ。

そのせいで、酒の力も借りたとはいえ、お主に無理を言うてしまった……あんなに自分の精神が弱つておつたなどと、ワシは全く気付いておらんかった……そのせいで、無理をさせてしまつて、本当に申し訳ないのじゃ。

きつと少しの間しか、……明日にでもお主は帰つてしまうじやろうが。

せめて、お主がここを出て行くまでは……ワシはお主に尽くすよう頑張らせて貰うからのう。

……また、ワシの寂しさが暴れてしもうたりせんと良いのじゃが。

うん……頑張るのじゃ。

よーしよーし、良い子で優しい……ワシの主様●

明日こそ、尽くさせて頂くからの……ゆつくりゆつくり、今日はお休み下されなのじゃ。

よーしよーし……素敵で愛しい、甘い熱をくれた人間のお主●

ゆつくり眠つてまた、明日……明日もお主が美味しいと言つてくれるものをこさえさせて貰うからのう。

……ふふ、べたついておるじやろうし、風呂の用意もしてやろうかのう」
色々、いつぱいさせて貰うからの……楽しみにして下されなのじゃ●

よーしよーし……よーしよーし……今はぐっすり、何も考えずに、目を閉じて……ぐっすり、たっぷり……おやすみなさいませ、じゃつ●

優しく、エッチで……素敵な、人間の、ワシの主様……●

ふふ……んっ、ちゅっ●